

総論

「子」と「親」を支えるために何が必要か？

1. 現代の『子どもの貧困』の現状と課題—地域全体で子どもを育てるために
山野 則子
2. 父親・シングルファザーから考える—子育て期の親への支援のあり方—
吉岡 亜希子

2023 年 1 月に岸田政権は「異次元の少子化対策」を施政方針に掲げた。背景には、想定を遥かに上回るペースで進む少子化によって、今後社会機能を維持できるかどうかの瀬戸際の状況に置かれているという危機意識がある。国会においても、少子化対策をめぐり激しい議論が巻き起こっている。

少子化という社会的課題を解決するには、若年層の所得向上をはじめ、様々な課題をクリアする必要があるが、その一つが「子育て」への支援である。この「子育て」を本誌のテーマとして取り上げるにあたり、総論として「子育て」の現状と課題を、「子ども」と「親」という視点から考えることから始めたい。

日本でも 7 人に 1 人の子どもが貧困状態にあるという「子どもの貧困」が問題視され、さまざまな対策が進められてきた。2012 年に始まった「子ども食堂」の活動に参加する生協関係者も少なくない。しかし、子ども食堂が必要とされる状況には大きな変化はない。こうした状況を変えていくためには何が必要か。「子ども」の実態と彼らへの支援について考えるため、子どもの貧困の実態調査を行い、政府有識者会議の委員も務める

大阪公立大学の山野則子教授にお話を伺った。

また、これまで地域生協の主な組合員は子育て期の女性であり、現在でも、出産・育児を機に生協に加入する女性＝母親は少なくない。そのため、生協にとって「母親」の子育てという実態は比較的に見えやすい。その反面、「父親」、とくに生協を利用しにくい「父親のひとり親世帯」における子育ての実態を知る機会に限られている。だが、むしろこうした世帯にこそ、子育て期の親が抱える困難がもっともはっきり現れているとも考えられる。子育て支援は「子ども」への支援であると同時に、子育てする「親」への支援であるという視点から、「親」は何に悩み、何に苦しんでいるのかを考えるため、シングルファザー等の実態に詳しい北海道文教大学の吉岡亜希子教授にお話を伺った。

子育て支援といった際に問われているのは、子育てに対する社会の根本的な理念や考え方である。だが、どのように子どもたちを育てるのか。現代における子育てへの理解を深め、理念を考える一助となれば幸いである。

(本誌編集長 加賀美太記)